

趣 意 書

私たち、杣人倶楽部は山の恵みを、日々の生活に生かすために活動します。

杣人（そまびと）とは、山と向き合って生きる人。

その実践方法は、

方法 い 森林整備を進めることによって得ることのできる林産物の活用

方法 ろ 山で生活をする知恵を学び、それを支えることを実践します

方法 は 杣人としての技を習得し、それを伝承します

〔山の恵みを生かす〕

日本の国土の殆どが森林であり、私たちは、その恩恵を受け続けてきました。しかし、現在に至っては、林業従事者の数が激減し、後継者の不足が深刻な問題となっています。

人々が山から離れ、それによって失いつつあるものを嘆くのではなく、自分自身が山にむかい、山からの恵みを受け取るための体験をすることで、山が活性化し、山の恵みが流れとなって、私たちの心身に潤いを与えてくれます。

〔山での暮らしを支える〕 — 森林空間ボランティア —

過疎化に悩む山村の暮らしは、高齢者の住環境の整備にはじまり、さまざまな問題を抱えています。行政による生活支援施策だけでは、山村に住むことに拘り、自立した生活をしている高齢者の生活に、体力的に支障が生じています。

高齢者とともに、薪作り・炭焼き・家の周りの草刈・山菜取りなどの作業をすることにより、杣人としての知恵を受け継ぐことにもなります。

〔森林整備は環境保全〕 — 林業ボランティア —

戦後に植林された人工林のなかで、間伐・枝打ちなどの施業が遅れ、森林の荒廃が進んでいる個所も少なくない、水源や国土の保全・動植物の生態系維持などと関連した問題として深刻化しています。

森林での間伐・枝打ちなどの作業を、体験学習・ボランティア活動等の企画を通して、一人でも多くの人に森林整備の重要性を伝え、そこから、空気・水・緑の環境保全の実践につなげる事が出来ればと考えます。

上記の内容をふまえて、杣人としてのい・ろ・はを実践します。

杣人倶楽部代表 目黒威徳